

P17

福岡県とその近郊での開業医における小児歯科医療の実態について

○尾崎みずほ*¹²³，西めぐみ**，肥川員子***

*¹うえの歯科クリニック(北九州市)、²小倉医療センター歯科(北九州市) ³ノリヒロ矯正歯科なおみこども歯科(下関市)、**みのらはら歯科医院(唐津市)、***こいかわ歯科小児歯科クリニック(三井郡)

【目的】

福岡県とその近郊の開業医では小児への歯科診療がどのような環境で行われているのか、また昨年施行された小児口腔機能加算の算定状況がどのようなものなのか、などを探るために、アンケート調査を行ったので報告する。

【対象と方法】

演者らの知人とその協力者らが直接記入、またはウェブフォーム送付での無記名式のアンケート調査を行った。福岡県およびその近隣の、病院歯科をのぞく開業医と勤務医を対象(1医院回答1枚)とした。アンケート回収期間は本年1月中旬より4月初旬までとした。

【結果】

有効アンケート回収数は280であり、医院名に小児歯科を意味する名称を含む医院は32件(うち小児歯科単独は18件)であり、標榜に小児歯科を含む医院は191件(うち小児歯科単独は6件)であった。全体のうち、小児口腔機能加算を算定したことがある医院は32件、近々算定予定の医院が22件であった。小児の初診時の主訴は、全体では虫歯が一番多かったが、小児歯科のみの名称の医院においては、就学前はフッ素や検診希望という主訴も多かった。

【考察】

小児歯科を標榜している歯科は多数あるが、小児歯科を意味する名称を医院の名前に含む医院での小児の口腔機能へのかかわりへの関心の高さが伺えた。また、初診時から予防や口腔機能に関する主訴で来院する患児もいた。今後、地域の小児歯科を担う者として、口腔機能の問題を持つ患児への対応を率先して行っていくことが重要と考える。

P18

当院小児歯科における初診患者の実態調査

○得津かおり、岡本潤子、岡峯愛海

(医)きなみ小児歯科・矯正歯科医院)

【目的】

小児歯科・矯正歯科専門医院である当院に来院する患者の特徴を把握するために、初診患者の動向を調査した。

【対象と方法】

平成28年1月から平成30年12月までの3年間に当院小児歯科を受診した初診患者1,797名を対象とし、診療録及び問診票より初診患者数、性別、年齢、主訴、紹介の有無について集計を行った。

【結果】

初診患者数は、平成28年599名、29年664名、30年534名であった。初診時年齢は各年とも2歳が最も多く、全体の20%を占めた。次いで、1, 3, 6歳の順で多かった。主訴は各年とも口腔内診査・予防が全体の約35%と最も多く、歯列・咬合が約25%、う蝕・疼痛が約20%であった。口腔内診査・予防、う蝕・疼痛の割合が年々増加する一方、歯列・咬合の割合は減少傾向にあった。紹介により来院する患者は年々増加しており、平成28年13名、29年22名、30年32名であった。そのうち、紹介理由が「非協力のため治療困難」であった者が平成28年6名、29年11名、30年6名であった。

【考察】

初診患者数が平成29年に増加している。これは、同年1月より広島市の乳幼児等医療費補助制度が改正され、受給対象者が増加したことに起因すると思われる。3歳以下の初診患者が多いのは、低年齢児ほど専門性の高い医院を受診する傾向にあることを示唆している。歯列・咬合が主訴の患者の割合が減少傾向にあるのは、一般歯科や小児歯科標榜医院での早期の矯正治療の増加によると推察される。一方で、う蝕・疼痛の割合が増加しているのは、非協力児の重症う蝕の治療等、専門的な知識、技術、人手を必要とするものに関しては、小児歯科専門医院に対応が求められているためと考えられる。